

あなたに

出逢えて：

— 第十七号 —



十月の春彌会を始めたいと思います。

一年間進行係を勤めさせて頂きます。

どうぞ宜しくお願い致します。

今まで皆さんお一人お一人が、進行という係りをされて、色んな形でお勉強をされ、磨きをかけてくれたと思います。

やっところで、私達が平行というか、ひとつの平らな地点に一緒にたどりつけた様な気がしています。

ここから私達は何をすればいいのかな、という所まで来たのではないかなという感じがしております。

今までお一人お一人にその時のお気持ちを伺っていたんですけれども、皆さんの心づくりといえますか、

ひとつの何かが出来上がってきたような気がしております。春彌先生のお姿を、見させて頂きながら色んな形で、

“磨き”をかけさせて頂いたとおもっています。



“磨き”というのも、いろんなものを“捨てて”きたのではないかと思ってお
ります。

“捨てて”心が、軽くなってきた所に、春彌先生が、今まで、ご経験された色んな
なたくさんの事を、私達に植え付けて頂きたいと思っております。

何が起るのかわからないのですけれども、

“神まかせ”といいますが、日頃から

“神まかせ”と思っておりますが、なかなか日常生活においては、出来ないこと
ばかりです。

せめてここで、訓練という形で、神さまにおまかせして、
どういう風に”何か”が、はこんで行くのかというのを、

春彌先生を、通して、実感して行きたい。

と、目標をもって、おります。

すべて今日から春彌先生のお気持ちのままに、私達は、うけさせていた
だきたいと、思っておりますので、
どうぞ宜しくお願い致します。

※
※
※
※
※

※※※※※

本当に春彌会が無かったら、色んな人との出会いが濃縮に、一つのまとまった塊にならなかったと思います。

私は今断食の業をしていますが、それで感じた事は、・

人間の体というのは、借り物、貸し物で、生まれて来た時、自分の生命体みたいなもの、自分自身の意志とかそういうものは、生まれて、三、四、五歳になったら段々についていくんです。

お父さんとお母さんから一個の人間として誕生してはきているんですけど、実際は借りているんだな、生きている間この体は借りているんだなど。

だから借りている間の体、臓器とか色んな物というのは、自分の意志である程度節制できるならば、するのが本当だなというのが、今更ながら実感して体感したんですよね。

でも、これはとても良かったなと思っています。

神事に私が関わるようになって、”三十五年”経つんですけど。

本当素直に来て、特別な欲を出さないで来て、間違っていないなと思ったと思います。

たった一人の方からでも有難うと言われるのはなかなか出来なくて、それを今、多くの方々から聞かされるという事は本当、冥利に尽きます。

そして、現にやっど”恩返し”が出来ようになりました。

私は、御先祖様が一番大事だと思うから、御先祖様に対する感謝とか心に有れば良いんじゃないかなと思います。形としても良いんですけど、心にあつたら一番良いんじゃないかなというのが私の信仰的な姿です。

私がある程度勤めきつたならば、また次の方が現れて、何年、何百年先になるか分かりませんが、その流れは、日本というこの歴史が有る以上は、通っていくんじゃないかなと思います。

神、神国と言われているこの日本がある限りですね。

でも地球を考え、月とか色んなのを考えたら凄い小さい事で、単なる一瞬なんですよね。でもその一瞬に生きている自分達だからこそ、せめてピカピカに魂だけは磨いて欲しいという気がします。

いつも思うのは人間であれ、動物であれ、動物なんかは、一所懸命飼われ、恩義を尽くして亡くなっていったら、もしかしたら人間に生まれ変わって来るかもしれないし、そういうのは感覚的にとても分かるんですね。

もっともっと力を付けて、私が皆さんにしてあげたいのは、

『自分の歴史を帰る』

母の胎内まで帰って、そして更に胎内以前まで帰る。

それを私は瞑々にして差し上げるようになるのかなと思います。

それは何故かと言うと、どんどんどんどん昔に帰って、

『結局前世で、こういう運命があったから命定まってこの世に誕生した』と、いう事がお分かりになると思うんですね。

実際そうなると、人間としての自覚が出来るんです。

人間として、何故生まれてきたのか、という自覚が。

春彌会の方とは深い深い縁があるので、そこまでお分かりになってご指導できたらいいなと思います。

ですから今日、何かお話をされたいという方はおっしゃってください。

— 司会者 —

本当に先月から今月にかけてこんな思いをしたんです。

という方がきつというっしやると思うんです。

皆様それぞれに今日は何を言おうかな。と考えてきた方もいらっしやると思いますし、なにもなくて”無”で、ここに来られている方も半分以上いらっしやると思います。

ただぐあえて自分の意見といえますか、自分はこういう事で…ということを、皆様の題材にして、そこから何かが展開していくと思うんです。

我と思わんかたというのは、失礼かとおもいますが、

何かこれだけの報告をしたいんですよ。と思われてここにこられた方はぜひ勇気をもってお話いただけたらありがたいと思います。

— 平島さん —

先程のお話のなかで、ご先祖を大切にするというお言葉がありましたけど、私達は心の面、形の面でどのように具体的に思ったり形として表したらいいのか、



どういふことが大事なのでしょう？

――先生――

形としては一応、ご仏壇が有ったりしますよね、ご仏壇が無い所とかもありが……。

結局、今さっき、自分の歴史が変わるといふときに母の胎内に最後戻りますと、言いましたよね。

お母さんの中で自分は育って十月十日、でもそれ以前、結局受精した瞬間、それぞれDNAより形、姿形に成るわけですよ。

ご先祖様も人間という体を借りて、その度毎にお母さんの胎内の中に入って、それを繰り返し繰り返し来ている訳ですよ。DNA、その血のつながり、それは、代々つながっているわけですよ。

でも、魂は別ですよ、魂は全部別ですよ。

だけどその血のつながり的なものは、母親が居るからこそ、父親が居るからこそ、姿かたちとして、この世に誕生してきています。

お母さんの胎内を通じてずっとつながっています。

その所に対する先祖なんですよ。

だから、そこをすっかり自覚してお参りしたらとても楽なんですよね。

今現在自分が居るのは、ご先祖様が居るからというのがはつきり分かりますね、一番大事だと分かりますよね。

それは何で大事かと言うと、”体を借りている”からだと思うんですよ。

ご先祖様の血の流れ、細胞、諸々全てが有るので今の自分が有るという事での感謝。

ご先祖様が通られた道、歩まれた道、どこかでストップしていたならば自分という者は居ない訳ですよね。

ご先祖様が子供から大人に成り、結婚して子供を生んだという道。そういうことの意識も感謝になるわけですよね。

だから、全て自分が存在する事に対しての感謝は、ものすごく有るので、ご先祖様の供養、その所を原点に持てばどんな場所に居ても出来るわけです。

たとえば仏壇が無くっても心に念じて、自分の両親自分のお祖父さんお祖母さんその前の方そして、一番力を付けてくださっているご先祖様！

ということを念じたら出来るんですよ。

例えば、自分で紙に書いてもいいし・・・

ご先祖様、御霊と書いてそこに、集中して、そこにお呼びしておれもできるし、お水も差し上げる事でできるし色々な事が出来るんですよ。

だから、「心一つ」なんですよ、ご仏壇が有るから参るのではなくて、ご仏壇が無くても別の形で、その代わり綺麗な場所にしろなくてはいけないですよ、白い布とか敷いてそこに書いてもいいし、一応目標（めどう）として、集まりますものね。その「心一つ」そこにしっかり自分が現在有るのは先祖が居るからという意識がしっかりないといけないんですよ。

とても「深い意識」

借り物なんです。生きている間の借り物、衣裳と一緒に。

誕生して、「体、五臓六腑」体は借り物、全て借り物です。

なぜ、借り物かと言いますと、

何億という昔々に、この地球ができて、遠い遠い昔の事になります。

人間という意識の無い遠い昔

これは一度そういう世界に入らなければなかなか分からない事です。

人間の世界は輪廻のような物で、生まれ変わり、生まれ変わり、この世に誕生

してまいります。

でも、それ以前の事があるわけですが、選ばれてしまったわけですよ。

この魂というものの、「魂の数は決まっている」のです、この地球上で。

その魂が生まれ変わり、生まれ変わり、輪廻のようにして降りてくるわけですが、たまたま、人間の姿、たまたま、牛の姿、たまたま魚、たまたま本だったりするわけですが。

”魂は数が決まっているんです”

でも人間として生まれた以上、人間としての形、姿、胎内全てが必要なのです。脳もそうなんです、全て脳から指導されますけども、その脳すら借りているわけなんです。

だから、脳が発達している子もいるし、脳が発達していない子も居るし、色々なわけですよ。

この”輪廻の世界”になります。

そういう事が分かりますと、何故人間が借り物かと言う事が理解できると思います。

借り物、命が終わる時は借り物を終わりました、といって捧げる。

意識は分かります、魂はこっち。

借り物を美化できる事も、借り物によって活かされる事も、それが認識できれば分かります。

平島さん分されましたか、
完全じゃないですね。完全じゃないけど少し分かれたね。

あのですね、凄く深すぎるんですよ、科学者みたい
だから、人間の誕生を研究している科学者とか、こういう近い事研究している方
達は、頭でうなずかれると思います。

春彌会は高級になったの、内容が。だから、難しくなりましたよね。
このところが理解できれば、大きい太い心で子供の事を見れるんですよ、ご主人の事も。

平島さんは質問質問って、ずっと感じるし、私も感じた、千明さんも感じた、
平島さんにマイク向きたいわ、ってずっと思ったの。

――平島さん――

昨日お通夜とお葬式に行きまして、何時も思うんですけども、亡くなるという言葉は結局この体から離れて魂だけがまたもとの世界に帰って行くと思ってるんですか。借りていて、胎内にお返しして・・・

――先生――

そうそう、胎内に一度帰って、

――平島さん――

お返しして・・・

だから、肉体が在る時だけしか人は磨けない、人格を磨けない

――先生――

そうそう、磨けないですよ、磨けません、亡くなって磨けない、生きている



間に磨かないと。

だから、それをずっと言ってきたでしよう、春彌会で。

それを聞いてきたから常磐さんなんか変わってきたんです。皆さんも変わられてますけどね。

今日ずっと借り物借り物って言ってらるでしよう。きつとこういう話を聞きたい人、一杯居ると思いますよ。でも縁がないんですよね。

縁が無いし、春彌会は結束強いんですよ、見えない部分でもの凄く。繋がりが。毒素が無いしね。

だから、平島さんにお話をと私も思っていたし、千明さんも思っていた、やっぱりそれで皆、聞かなければいけないかったです。レベル高いですもの、言いながら思いました。

— 平島さん —

ビックリしました。

――先生――

レベルが高すぎますよね、高いですね。

だけど、これをクリアーするとね、自分が思っている事がちっちなもの、

――平島さん――

自分が小さい事は、分かってるんですけど、それをどう脱ぎ捨てるか・・・

――先生――

なぜ脱ぎ捨てるにいかというと、人生長く来てるじゃないですか、三歳心って
よくいうでしょう、三歳まではまずいいんですよ、産まれたままの心だから。

三歳までは本当綺麗、だけど三歳を過ぎた頃から、いい物も悪い物もついていく
んです。

今の時代、日本なんか特に悪いものが今どんどんあふれているじゃないですか。
ここで、こびりつくから取れないんですよ。

だから、三歳心の時になる。と良く言うのは、そこなんですよ。

今日の春彌会は、話が高度って思いました。

これからは、グレードアップしていくと思います。

分からない？

百のうち一分かればいい。

だけでも、この春彌会では、しないといけないの。

先ほど、千明さんが来るまでの間シーンとして張り詰めた気持ちがあったんですけど。その所はとても大事な空間だなと思いました。

座禅をしているような。

人を待つ時間とか、これから始まる何かを冷静になって、静かに控え待つこの空間というのは凄くと思いますね。

御神様の世界とか、張り詰めたシーンとした世界があるじゃないですか。そんな感覚すら感じましたね。

でも、今日はね借り物なのによってずっと言うでしょう。これが不思議ですね。



子供として生まれて来たときに脱ぎ捨て方が足りないからそのまま、産まれ生きてきた。その意味合いなんかも自然と分かれるてくるんじゃないですか。でも、一番分かるのは亡くなられた時だと思います。

自分が借り物って意識が強くなったならば、子供を与えていただいて、健康で子供がいるって言う事なんかも有り難く感じますからね。

子供が人様に迷惑をかけてなかったら、有り難く思いますからね。

春彌会は特別な気持ちがあっても有るので、春彌会の人は大きくなって欲しいというのがありますね。大きくなって欲しいというのは自覚して欲しいって言うのも有るんですけどね。

生きている間は一生懸命してなくては成らない、実際それをする事によって日々の人間としての生き方にも潤いが出るし夢や希望が出来ますよね、マイナスにはならないですよ。

千明さんが進行係として展開していくような気がしますね、だから皆さんも、力をいただこうと言う気持ちを入れて来てください。



*
*
*
*
*

— あとがき —

本当に有り難い時間を頂いたと思います。

こうして春彌先生を中心にこの時代に皆さんとお逢いできた事が
ありがたいことと常々思われます。

一生懸命生きて、次また生まれ変わってはたして、

お逢いできるかわかりませんが、春彌先生とお逢いできた
この時間を大切に大切に生きていきたいと思えますので、
皆さんの色んな経験、色んな事を、

ここで、出し合いながら磨きあっていききたいと思えます。

先生有難うございました。

第三十二回春彌会

会場 魚一

日時 平成十七年十月一十三日七時半より

司会・田尻 千明

*
*
*
*
*

